

将来は栽培するハウスの規模を大きくしたいという政木さん。農業をする上での苦労は数え切れないくらいあるそうですが、自分の夢を実現するためには努力を惜しまない姿勢、見習いたいです！



いつも
トマトのことが
気になります。

まさき しげお
政木 茂雄さん
(田村)

フルーッとトマトを作り始めて3年目になります。以前は県外で自動車設計の仕事をしていましたが、地元に戻ってきて農業を始めました。始める時は全く知識がない状態でしたので、やっぱり不安でした。農業振興センターやJA、種苗メーカーなど、色々なところに相談しました。農業を始めてから、肥料や水、室温や湿度の調節を色々試行錯誤してきて、今はその分量なども分かってきたので、収量や味も安定してきています。サラリーマン時代は、時間と大量の仕事に追われる毎日でしたが、転職してからは、少し時間的な余裕はできました。今は作物の成長と収穫作業に追われています(笑)。でも自分の性格に合っている仕事だと思っています。農業をしていて良かったなあと感じるときは、美味しいものができて、それを食べてくれたお客さんに「美味しい」と言ってもらえたときですね。だから毎日、順調に成長しているか気になっています。休みの日には、家でピアノを弾いたり、美味しい物を食べにドライブに出かけたりしています。

にこにこライフ

186



親子クイズ 524

Q 1～6までの数字が書かれたカードが、図のように並んでいる。
次の①～④の条件を満たすとき、A～Fに入る数字を教えてください。



- ① 上段の合計は下段の合計より1つ小さい
- ② 右列の合計は5
- ③ 「5」のカードは「4」のカードの左隣
- ④ 「1」のカードは左列

【第523回解答】

ナンコクシ

【第523回当選者】

高田 結子 (篠原)
柄 光信 (大桶甲)
長尾 淳一 (大桶甲)
長尾 宏 (大桶甲)
山本 美智代 (十市)

■応募締切／1月14日(木)必着
■あて先／〒783-8501
南国市大桶甲2301
南国市企画課「親子クイズ」係
*はがきで応募
■賞品／正解者の中から抽選で、5名に
図書カード(1,000円)を贈呈

★応募総数／56通 ★正解率／98%

親子クイズは、広報委員が毎月順番に考えています。

58 人権学習シリーズ

ある日、インターネットで見かけた記事に「ルーマニアでイルカに『人権』を」というものがあり、とても驚きました。そしてその後、目に入ったものが、「インドがイルカを『人』と認めた」という記事でした。それによると、インドではイルカは「人類ではない人」なのだそうです。そのような記事を読んだ後では、アメリカで「チンパンジーにも人権があるのか」という裁判が行われている記事を読んでも、大して驚かなくなっていました。さて、これはいったいどういうことなのか。調べてみると、どうやらこれは「動物の権利を守る」という運動でした。このような思想は紀元前からあるそうです。そう考えてみると、日本でも江戸時代に「生類憐みの令」というものがあつたのを思い出しました。「動物の権利を守る」という運動は、「性差別や人権差別に反対する運動の延長上にある」という考え方のようです。そうならば当然、人間の権利も守らなければいけません。生類憐みの令も、犬ばかりが大事にされたかのように思われますが、実は本来の目的は、当時横行していた「捨て子」

「人権って？」

保護する」というものだったとも言われています。そう考えると、はじめはとんでもない話に思えたイルカの人権の話も、少しは理解できる気がしてきました。とは言っても、やはりそれは人間の「人権」がきちんと守られた上での話です。残念なことに、今の世の中では、動物の権利よりも前に守らなければいけない「人権」はたくさんあるように思えます。動物の権利を守るということについては、人それぞれ考え方が違うと思いますが、なによりも「動物も人も、身近な命を大切にすることを始めよう」と思いました。

※このシリーズは、あなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■問い合わせ
人権啓発広報委員会
☎880・6569

なんこく歴史散歩 第37回

江戸時代に入り、土佐藩主に山内一豊が就いてからの政治の中心は現在の高知市に移ります。そんな中、二代藩主忠義の時代に手腕を発揮したのが野中兼山です。兼山は慶長20(1615)年に生まれ、16歳の若さで奉行として登用されてから32年もの長きにわたり活躍します。

兼山の業績で特に中心となるのは新田開発事業です。新田開発は大規模な用水路の建設を必要とします。香長平野の新田開発は寛永16(1639)年、山田堰の建設に始まります。そして、難工事の結果、中井川、上井川、舟入川の用水路が完成したことで、香長平野に千500町以上の新田を生み、西の浦戸湾に注ぐ運河ともなり、用水路の完成は耕地の拡大のみならず、商業活動の発展にも大きな役割を果たしました。野市や山



野中兼山の開発 — 舟入川と後免町 —

田、御免町は、そうした拠点として作られた町で「在郷町」といわれます。また、舟入川は、農村地帯と高知城下を結ぶ運河として、重要な水路でした。その拠点として承応元(1652)年、稲吉新町が作られました。ここに屋敷をかまえる者には25代(約50a)の土地を永代無年貢で与え、物品の売買にも課税をせず、様々な夫役も永代免除する恩典を与えました。年貢や夫役を御免(免除)する町、これが現在の後免町の始まりです。明治22(1889)年には現在の後免町と表記されるようになります。こうした兼山の偉業を讃えて、日吉神社の前に後免町創立記念碑が建てられています。昨年は野中兼山生誕400年にあたる年でした。我々の生活は、400年経った今も兼山の築いた礎の上に成り立っています。



後免町創立記念碑

■問い合わせ
生涯学習課文化財係
☎880・6569